

# こども・若者の意見を聴く取組について (報告)

令和6年10月17日(木)

第4回大津市社会福祉審議会児童福祉専門分科会

# 1 こども・若者の意見反映に関する本市の取組について

次期こども・若者支援計画策定にあたっては、以下のようなこども・若者等、当事者の意見を聴取し反映させるための取組を実施。

取組名	趣旨・目的	想定する対象者	実施期間
次期計画案に対するこども・若者向けパブリックコメント	こどもが理解しやすい計画素案（やさしい版）を作成し、パブリックコメントにより意見を聴取・反映する	小学生・中学生	R7.1 頃 実施予定
LINEを活用したこども・若者意見聴取事業	身近なコミュニケーションツールであるLINEの機能を活用し、こども・若者から意見表明しやすい形式で意見を聴取し、反映する	高校生・大学生等 (おおむね29歳まで)	R6.10～R7.3
こども・若者意見交流会	ファシリテータのもと、こども・若者支援について対面形式で意見を聴取し、反映する	高校生・大学生	R6.9.23
地域の活動からこども・若者の思いを聴く取組	地域で行われているこども・若者向けの活動から意見等を吸い上げ、施策に反映する	地域活動を実施する関係団体 活動に参加するこども・若者	R6.6～10
声を上げにくいこども・若者の思いを聴く取組	困難を抱えるこども・若者の声を聴くために、普段接している支援者等にヒアリングを行い、その思いを聴取し、反映する	困難を抱えるこども・若者 (不登校、障害、いじめ、ひきこもり等)	R6.6～10

## 2 意見を聴く取組 実施状況

### 地域活動への参加者、支援団体等へのヒアリング

ヒアリング先	内容	対象者	実施日
長等青少年育成協議会 (放課後カフェ)	参加者へのアンケート、実施団体、参加者へのヒアリング (「放課後カフェ」に来た理由等)	「放課後カフェ」に参加している中学生 実施団体	2024/6/28 2024/9/13
唐崎カピバラ食堂 (子ども食堂実施団体)	保護者へのヒアリング (こどもたちに意見を聴く方法、保護者の不安に寄り添う支援について)	不登校のこどもを持つ保護者	2024/7/29
NPO法人CASN (子ども食堂実施団体)	実施団体へのヒアリング (子ども食堂の必要性)	実施団体	2024/9/26
児童養護施設「小鳩の家」	施設従事者へのヒアリング (子どもの権利を知ってもらう機会の必要性、意見を自由に表明するために必要なこと)	施設従事者	2024/9/6
石山学区青少年育成学区 民会議 (たら川文庫)	文庫活動に来ていた小学生に聞き取り 保護者へアンケート記入依頼	文庫活動に来ていた小学生 保護者	2024/9/27

### 高校生を対象とした意見交流会

事業名	対象者	実施日
おおつみらいミーティング	高校生 1 1 人 運営サポーター (大学生) 3 人	2024/9/23

### 3 ヒアリングで出された意見

#### 基本方針 1 子ども・若者が自由に意見を表明する場と意見を反映する仕組みづくり

##### みなさんの意見

##### 子どもの権利を知る機会について

- ・子どもの権利を知る機会については、子ども・若者がどこかに所属している期間（学校園等に通園・通学している期間等）に実施することが大切。
- ・CAPの研修は、子どもの権利を知る機会として大切な取組である。学校園で実施する際には、研修を受けた子どもたちの反応を受け止める先生側の理解も大切。
- ・地域でも人権学習など実施している。そういった活動を、おとなが子どもの権利について学ぶ機会の1つとしてとらえる。

##### 子どもの意見表明の機会について

- ・子ども・若者自身が意見を伝えたい時に、相手のことを信頼して本音を言えるということが大切であり、子ども・若者が意見を言っていんだと体感できることが大切。
- ・意見を言うことも、言わないことも自由。子ども・若者が言いたいときに安心して言える場として、多様な場づくりが必要。
- ・子どもたちが意見を言いたいと思うためには、その意見を聴くおとなが子どもの周りにどれだけいるかということが重要。意見を丁寧に受けとめることが、次も意見を言いたいという気持ちにつながる。

##### 意見の反映

→基本方針 1 **「子どもの権利を子どもとおとなが学ぶ機会の確保」、「社会参画や意見表明の機会の充実」**について、今回の意見を踏まえ、取組を検討していく。

→子ども・若者が意見を言うためには、基本方針 4 **「安心できる居場所づくり」**も重要。子ども・若者は安心できる環境で初めて意見が言えるようになる。そのことも踏まえ計画内容を検討する。

### 3 ヒアリングで出された意見

#### 基本方針 4 こども・若者の視点に立った多様な居場所づくりの推進

##### みなさんの意見

##### こどもの居場所について

- ・こどもの居場所づくりについては民間と行政でできることが異なる。役割分担をしたうえで民間と行政が連携して場づくりを進めていくことが重要。
- ・民間が実施するこどもの居場所については、地域や学校と連携することが重要。地域や学校にとって、困難を抱えるこどもをつなぐ先として認識できるよう活動を知ってもらうこと、また活動を継続することが大切。
- ・居場所づくりを実施する際、こどもたちには自由にほっとしてもらうための環境づくりが大切。おとなはその場にいるが、なるべく声をかけないなどの配慮も必要。自由にいい、一人でも、友達と一緒にいい、何をしてもいいという居場所があってもいいのではないか。

##### 子ども食堂について

- ・以前は家庭や地域の中で周りのおとなが、こどものことを気にかけて声をかける機会があった。現在はこどもが一人である時間も多くなり、声をかける存在、気にかけている存在が周りにいないことも多い。そういう意味では、子ども食堂の必要性は大きい。
- ・家で食事をすることが困難なこどもたちに来てもらいたいと思うが、参加は特定せず広く参加を求めている。本当に必要としているこどもへの周知は困難。
- ・子ども食堂の中でおとなが気にかけて、声をかける。些細なこと(料理の手伝いなど)でも、できたことに丁寧に気づきほめる、声をかけることがこどもの安心につながる。

##### 意見の反映

→基本方針 4 **「多様な居場所づくり」**について、今回の意見を踏まえ、取組を検討していく。

→基本方針 4 **「既存の地域資源を活かした居場所づくり」、「地域における居場所づくりの担い手の支援」**について、子ども食堂等地域資源の活用を検討する。また担い手の支援について、団体の活動状況を把握し取組の継続やこどもを理解するための学ぶ機会など必要な取組を検討する。

### 3 ヒアリングで出された意見

#### 地域活動に参加しているこどもの意見から

地域活動に参加している理由、どういところがあればいいかへのこどもたちの声から

##### アンケートから

- ・友達とゆっくりできる、話せるところ   ・安心していられるところ
- ・本があるところ   ・勉強（宿題）ができるところ
- ・お菓子やジュースがもらえるところ   ・近くにあるところ

##### 参加者へのヒアリング

- ・放課後、家に帰る前に友達とほっとできる場所として毎月参加をしている。
- ・学年が違ったり、名前を知らない子とも、ゲームなど一緒にしていると仲良くなれる。
- ・何をしても、おとなから声をかけられることもなく、好きなことをして過ごすことができ、安心できる。
- ・お菓子やゲームがあったり、また場所も学校から近いため、友達に声をかけて一緒に行きやすい。

##### 意見の反映

→基本方針4「**既存の地域資源を活かした居場所づくり**」について、地域団体が実施している活動においても、こどもたちが、どういった場所であれば落ち着いて過ごせるのか、行きやすい環境にするには、どういったものが必要かなど、直接こども・若者の声を聴き、一緒に環境づくりを進めていく必要がある。

## 4 意見交流会（おおつみらいミーティング）で出された意見

### （1）こどもの権利について

#### みなさんの意見

以前からこどもの権利を知っていましたか？ 6人/14人

#### こどもの権利があるということを聴いてどう感じましたか？

- ・深くは知らなかったので、知る機会が必要
- ・普通のこと、当たり前のことだと思っていたことが、権利としてしっかり記されている
- ・「こどもの最善の利益」ってどういうことだろう
- ・こどものためを思った権利だけど本当に守られているのか、と感じた。また、全然わかってきていないと感じるところもあったので今回はそれを一緒に考える機会になって良かった
- ・こどもが何歳までなのかなど不明な点も多く、当事者であるこどもたちに内容が伝わっているのか

#### 意見の反映

◎こどもの権利については半数近くが「知らない」、また知っていたとしても深くは知らないという意見が多く、**当事者であるこども・若者が権利について知る、理解する**ための取組が必要

◎本当に守られているのか、当事者であるこどもたちに伝わっているのかといった意見もあり、こどもの権利を**おとなも理解し、こどもたちに正しく伝えていく機会をつくる**ことが必要

◎わかってきていないと感じたことを、今回一緒に話せる機会となってよかったとの意見もあり、**こどもとおとなと一緒に意見を交流する場が重要**

→基本方針1 **「こどもの権利をこどもとおとなが学ぶ機会の確保」、「社会参画や意見表明の機会の充実」**について、今回の意見を踏まえ、取組を検討していく。

## 4 意見交流会（おおつみらいミーティング）で出された意見

### （2）意見表明の場づくりについて

#### みなさんの意見

##### 今回参加してどうでしたか？

- ・自分も周りの人も言いたかったことが言えていたように感じたので、もっとこういう機会があればいいなと強く感じた
- ・普段思っているだけで言えない本音を伝え合うことができた
- ・言葉を交わさないと伝わらないことが多いので、実際にディスカッションできる場を設けてもらえたことがよかった
- ・実際に出した意見や案が、市でいつ頃、どのように話し合われるのかを説明してもらえるとよかった

#### 意見の反映

◎本音を言い合えた、他の人がどう感じているかを知ることができた、またグループワークにおいて大学生の運営サポーターが進行を務めることで意見が言いやすかったという意見も多くあり、**同じ世代の横のつながりの場**が必要

◎意見を言い合え、相手の意見を聴く場など直接言葉を交わすことが必要。**若者のコミュニケーションの場としても対面での機会が必要**

◎意見を出したあと、その意見がどのように扱われるかを当事者と共有することを前提に実施することが大切。

→基本方針1 **「社会参画や意見表明の機会の充実」、「意見表明に対するフィードバック」**について、今回の意見を踏まえ、取組を検討していく。

そのほか、参加する高校をもっと増やす、参加した高校生の感想を知ってもらうことで関心をもってもらう、高校生が気軽に相談できるしくみとして大学生が高校に行くなどの提案をいただきました。

